

モヤッと知識をスッキリ解消！ 泌尿器科疾患の知識

泌尿器科上田クリニック院長
上田朋宏

Q₁

前立腺がんが高齢者に多いのはなぜでしょうか？



大きく3つの理由が考えられます。前立腺がんは、男性ホルモンで進行します。その内分泌環境は青年期がスタートです。よって多くは成人期以降にしかがんになりません。

次に前立腺がんは、がんができてから臨床がんとして診断されるまでおよそ20年という非常に

ゆっくり進行するがんだからです。

最後に、長寿社会になったからです。社会の衛生福祉などインフラ整備で疫病などの発生が抑制され長生きが可能になったからです。人生40年の時代では、前立腺がんになる前に肺結核などの感染症で命を落としていました。

Q₂

前立腺肥大症の患者さんはほとんどPSAを測定されていますが、前立腺肥大症があると前立腺がんになりやすいのでしょうか？



PSAは前立腺の特異抗原で、がんの特異抗原ではありません。よって当初は下部尿路症状（頻尿、排尿障害など）の原因が前立腺と思われる患者さんが泌尿器科を受診し、PSA血液検査をしていました。昨今は人間ドック、市民

検診にPSA測定が組み込まれるようになりました。その結果から、前立腺肥大症がある人が必ずしも前立腺がんになりやすい事実はないことが分かっています¹⁾。

Q3

腎がんに抗がん剤や放射線治療が第一選択ではないのはなぜでしょうか？



根治的腎摘除術を除いての質問としてお答えします。

腎がんは、がん自体、免疫原性が強く、多くの抗がん剤や放射線に対して抵抗性をもってい

ることが、多くの臨床研究から明らかになっています。そこでインターフェロンを中心とした免疫療法、血管新生因子阻害目的の分子標的治療薬が第一選択になっています²⁾。

Q4

精巣腫瘍は若い男性がかかりやすいのはなぜでしょうか？



精巣組織は男性特有の組織で、あらゆる細胞に分化し得る細胞であるため、増殖スピードは、がんのなかで最も早く、悪性度も高いため、がんができるとすぐ陰嚢が腫れてきます。だいたい2歳、18歳、60歳に発症のピークがあ

ります。停留精巣や精巣発育不全のような胎児期の問題で発がん率が高いので、若いときに発症すると考えられていますが、煙突掃除夫に多発し化学物質曝露に伴う発がんの影響もあります。

Q5

精巣腫瘍をセミノーマ・非セミノーマと区別するのはなぜですか？



これは組織発生母体で、セミノーマを中心に分けることで、抗がん剤や放射線の感受性も異なり予後も変わるため、臨床上分類されます。セミノーマは、放射線も化学療法も有効で予後

は非常によいです。非セミノーマは胎児性がん、絨毛がん、卵黄嚢がん、奇形種があり悪性度も高く、抗がん化学療法を徹底的に行う場合が多いです³⁾。